

議会運営委員会会議記録（概要）

令和4年12月9日（金）

開 会 午前9時0分

**【議 事】**

○請願第5号 『防衛費（軍事費）2倍化反対、社会保障の拡充を求め  
る意見書の提出を求める請願』

**【質 疑】**

佐野委員

自由討議を求める。

末吉委員長

自由討議を行うことにご異議ありませんか。（異議なし）

**【自由討議】**

浅野委員

紹介議員の会派の共産党にお聞きしたい。防衛費2倍に関してと、それを社会保障の拡充にということで、社会保障を拡充するというのは、賛同できるが、防衛費の予算をこちらにとか、別個のものにしなかった理由を伺いたい。

小林委員

私たちは会派として紹介議員となった。この団体は、そう考えて出されたということだ。防衛費に使うなら、社会保障に使ってほしいという趣旨

だと思う。1, 4 3 3名の署名もついており、この団体は建設工事関係の職人、零細な一人親方など、危険な仕事をこなしていて、怪我や病気を心配する方々が加盟をしている団体だ。そういう中で、最近の資財の高騰や燃料費の高騰、安い労賃の下請け、孫請けを余儀なくされていて、実質の賃金は落ち込んでいるのだと。生活用品が物価高の高騰で、生活はより厳しくなっている。社会全体が貧困化になっている中で、なぜここで防衛費を2倍にしなくてはならないのかということ、それよりも、自分たちの生活防衛の方に税金を使ってもらいたい、そういうような思いがある。既に税金だとか社会保険料だとか、医療介護の一部負担など、どんどん上がってきている。75歳以上の後期高齢者医療費が窓口で10月から2倍になっているし、年金は高齢者の中で下がってきている。そういう中で、防衛費を2倍にするのはいったいどうなのかということ、医療、社会保障や教育などの国民の生活に直結する予算そのものが大幅に削減されていくのではないかと懸念を持っていらっしゃる。消費税がさらに上がっていくのではないかと可能性もあると言われている。防衛費の2倍化が強行されるようになれば、疲弊している、今本当に大変になってきている国民生活そのものが致命的なダメージを受けることになって、今やるべきことは防衛費を削減するとともに、特に大企業が貯め込んでいる内部留保などを使って、その利益の一部、利益の一部なんですよ。賃金や税の社会保障費として国民に広く還元してほしい、そういう願いをもって、生活が改善するだけでなく、内需が拡大して、日本経済の回復にもつながって

いくのだと、そういうふうを考えておられるということだ。

これから防衛費を5兆円に増やそうということだが、政府の資料に基づいての試算などもあるわけだが、立憲民主党のほうでも大学の無償化、児童手当などに対する試算もされている。そういう中でも、大学授業料の無償化について、5兆円あったら何ができるのかといたら、大学授業料の無償化は1.8兆円あればできるということだとか、児童手当の高校までの延長していくこと、所得制限を撤廃していくことは1兆円で済む。そのほかにも小・中学校の給食費の無償化についても4,386億円、年金でも受給権者4,051万人全員に、年に1人12万円を追加で支給するということが4兆8,612億円。防衛費の5兆円以内で済むわけだ。医療費についても公的保険医療の自己負担をゼロにしていくことによって、5兆1,837億円、防衛費よりちょっと多いが、そういうふうにはできるわけだ。消費税についても、現在の税率10%から2%引き下げるだけでも4兆3,146億円。防衛費に回すのではなく、私たち普段から皆さんからも議会の方に届けられている要望でも、このことをなんとか実現していくのではないかと私たちの関心、生活、命に関係する予算に回していくことができるのではないかとということで、このように出して、社会保障の拡充を求める意見書ということになっているというふうに、私たちは理解をしている。

浅野委員

この中からそこまで読み取るというのはすごい。社会保障の拡充という

のは国民生活を守る上でとても大切なことだと思うが、そこを防衛費と結びつくことがちょっと今一つ納得できない市民の人もいるのかなという気はする。社会保障についてはよく分かった。そこまで含めて読み取られるというのはすごいと思った。

佐野委員

うちとしては、非常に気持ちは分かるのだが、防衛費こそ究極の社会保障であるということが、我々は2倍ですら足りないというように考えているので、これにはそもそも反対だ。

村上委員

今、説明いただいたそういうような団体の思いということで、ほぼ、普段、共産党が言っている主張と全く同じ主張をされているようだが、この請願は個人の名前が代表者としてあるが、先ほどから団体、団体というようにおっしゃっている。この団体というのはどこのことか。

小林委員

建設関係、職人の方たちの団体で、この請願代表者の増田さんはその団体の代表になっていらっしゃる方だ。

村上委員

団体名を教えてください。

小林委員

埼玉土建だ。

村上委員

埼玉土建ですよ。共産党などが支援を受けている。分かった。

小林委員

共産党のと言われても、共産党とは全く別の団体で、私たち共産党の方は、市民の、国民の皆さんの声を受けて、それで要求を、政策にしていくということをやっているのです、同一のものではない。この団体の中には、いろいろな党を支持している方もいらっしゃるということはお聞きしている。

村上委員

同じ団体とは、先ほど私は一言も言っていない。支援を受けているような団体ですねと言っただけだ。

小林委員

支援というのは、必ずしも、一人一人、中にはいらっしゃるかもしれないが、全員かどうかというのは、別に機関決定としているわけではないと思うのでそれはちょっと分からない。

石原委員

いろいろと説明をいただいた中で、社会保障がとても大事だということは非常に、誰もが思っていることだと思うが、今、防衛費の議論をしなければならない環境というのは、ロシアが大変に非人道的な行為をしているということ、中国が台湾関係に絡んで非常に緊張状態が高まっていること、先月も北朝鮮からミサイルが飛んできたし、今月に入ってから、日本に向けて北朝鮮は砲撃をしていると、こういう安全保障環境が非常に危

ういことになっているから、国民の生命、財産を守るために防衛費の議論をしなければならないということだ。社会保障費の議論と、防衛費の議論は、私は分けて考えるべきだと思っている。まず、要望に賛同されて、共産党は賛同されたということだが、国政政党でもあるので、ロシアや中国、北朝鮮、こうした日本に対して安全保障上の緊張状態を仕掛けてくる国に対して共産党は抗議活動をしたり、こうしたことをやめるようにということをもっとなさればいいのにと思ったのだが、その辺はどうお考えか。

小林委員

そのことについては、私たちはロシアのウクライナへの攻撃、侵略に対して、声を大にして言ってきており、皆さんからのカンパなども集めてきた。何よりも、軍事力を強化するのではなく、政治の責任は、まずは、いかに戦争をしないようにするのが、そこに力を入れていかなければならないと思う。日本の軍事力強化ということについては、今、いろいろ周辺の国々のことをおっしゃったが、東アジア諸国やロシアとの関係を悪化させるため、さらに平和をもたらすことはないというふうに見ている。領土問題や拉致問題などもある。その解決もさらに遠のいてしまう。そのように考えている。また、偶発的な軍事衝突から戦争に発展するリスクが大変高くなる。国民の生活を守るには、戦争をしないこと、これが最も重要なことになってくる。それには、戦争の原因となり得る紛争の火種を話し合いで解決するようにして、外交努力を続けるほかに道はないと考えている。防衛費の2倍は国民生活を本当に根底から破壊するばかりか、近隣諸国と

の関係もますます悪化させることになって、戦争のリスクを高めていくと  
考えている。

石原委員

戦争に発展してほしくないというのは全ての国民の願いだと思うが、今のこの環境の話をしたし、小林委員も同じ環境を認識していらっしゃると思ったが、こういうことの中で、日本は今、被害者の立場に立っている。砲撃を向けられているし、日本にミサイルが向いていると。日本は被害者の立場なんです。だから、いくら日本政府にこのような要望をしても、加害者側の国に対して、それをやめさせなければ何もならない。それは先ほど、ロシアには強い姿勢を示しておられるということだったが、中国や北朝鮮に対して、やはり同じような姿勢を持っていただけるか。

小林委員

それは当然のことで、外交努力でやっていく。政府が率先してやっ  
ていかなければならないことだと思う。核兵器禁止条約ということでいえば、ロシアのプーチン大統領なんかでの、その危機が迫っているというようなことも言っているが、まさしく、核兵器禁止条約にしっかりと政府は参加して、表明していくことが必要である。憲法第9条を守る、そのことによって、この戦後、平和な日本というのが守られてきたのだと思っている。

中村委員

種々お話を伺っていて、こうやっていろいろな意見があるので、なかなかそれを一枚岩に今、まとめあげるのは難しいと思うし、これから議員提

出議案として意見書を上げることもできる。今、皆さんの意見を伺っている中で、全会一致が見られそうな意見書の案を、議員提出議案として提出していただいても、皆さん、誰でもいいが、私も含めてだが、気持ちがある方が、やってもいいと思うし、この請願は今の段階でここで議論をしても、なかなか意見の一致が見られそうもないので、とりあえず採決を留保していただいて、できる限り全会一致になるよう努力をするというのが、これからの議論のあり方だと思う。

**【自由討議終結】**

末吉委員長

他に質疑はありませんか。

**【質疑終結】**

**【意 見】**

中村委員

今申し上げたとおりだ。

矢作委員

私たちの会派は紹介議員にもなっておりますし、請願者は1, 432名の方の署名もあり、請願者を含めて1, 433名おりますので、ぜひ採択をしていただきたいと思います。

**【意見終結】**



末吉委員長

ただいま、採択と、できる限り全会一致になるよう努力するための採決留保の意見がありました。議会運営に関する申し合わせ事項において「議会運営委員会の運営について、機関意思の決定は全会一致とする。その他の運営については、全会一致になるよう最大限努力する。」としています。ここで確認のため暫時休憩します。

休 憩 （午前9時17分）

※休憩中に議事の進行及び「議会運営に関する申し合わせ事項」を確認した。

再 開 （午前9時21分）

末吉委員長

全会一致に向けた最大限の努力に時間を要するため、請願第5号についての採決を留保します。

散 会 （午前9時22分）